

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里	ユニット名	牧水館
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰甲697-5		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokansaku.jp/45/index_nhp?action=kouhouyou_detail_2015_022_kanitrue&lievosvoCd=4572100859-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな山間の中に位置し、虫や鳥のさえずり、自然の草花に触れ季節を感じることができる。庭には畑があり、ご利用者が自由に野菜を植えたり収穫したりすることができる。近隣との繋がりや深く、グラウンドゴルフなどの地域行事に参加したり、逆にホームでのイベントに参加していただくなどの関係を築いている。今後は、これまでの経験を活かし、より多くの地域の方に認知症の理解を深めていただけるような働きかけをおこなう。開設から十年が経過したものの課題は多く、あらためて職員の処遇改善、業務見直しなどをおこない職員の定着に向けて取り組み始めたところである。また、グループホームで暮らすご利用者は主人公であり、職員はあくまでご利用者を陰で支える黒子であることを周知し、ご利用者中心の暮らしが当たり前となるよう努力を続けていく。理念に掲げられているように、ご利用者の「貴方らしい生活」の実現を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民の訪問や野菜などの差し入れがあり、利用者が近くの畑の手伝いやみかん狩りに行くなど地域との関係を大切にしているホームである。区に加入はしていないが、管理者が区の班長会に出席したり、回覧板を回してもらうなど、相互に情報を交換できる関係を構築している。また、ホームの行事に近隣住民の参加があり、利用者も地域の行事に出席して交流している。施設長と副施設長は、利用者が自己選択のできる、利用者主体のホームの構築を目指して、職員の意識改革や業務改善に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げているが、具体的に実践へ繋げる事が出来ていない。入社・退社も多く、職員が自己にて解釈している印象が現在もみられる。分かりやすい理念作り、または継続して理念を伝え続ける取り組みを今後も行っていきたい。	管理者は職員と接遇や地域密着型サービスの理念について話し合っているが、職員は理念の本質を十分に理解できていない。		利用者が当たり前に自己選択ができ、職員主体ではなく利用者主体となるよう理念を共有し、日々の支援に生かすことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区への加入はないが、事業所が地元へ密着しており、日常的な野菜のやりとり、地区行事への参加を行っている。しかし利用者との交流は一部の利用者へ偏っている。全利用者が均等に地域との交流が図れる様取り組みたい。	現在、区には加入していないが、班長会への出席や回覧板等で情報交換がなされている。地域行事やホーム行事に相互に出席し交流の機会を持っている。クリスマス会に地域の方やボランティア、家族など、60名の出席があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への働きかけは行っていないが、見学时や身近な家族を通して、話をしている。今後、地域住民へも声掛けを行い、認知症サポーター養成講座開催も予定している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2カ月の運営推進会議では、活発な意見交換がされている。地域について把握していない事が多い為、互いに理解する良い機会となっている。内容は回覧にて伝達を行っている。12月は区の班長会へ参加する事になっている。	ホームの現状報告だけではなく、出席者から活発な意見や提案が出されている。出された提案はできることから取り組み、駐在所に協力依頼を行うことで、協力関係を確立している。また、区の回覧板の回覧や班長会出席案内があり、実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、推進会議でのやりとり以外にも、電話や窓口にてやりとりを行っている。相談できる事で安心している。	市の担当者とはいつでも相談できる関係にあり、密に連携し、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行っておらず、明らかな身体拘束は行っていない。昨年度・今年度と勉強会を行っておらず、職員の理解は十分とは言えない。対象となりうる利用者が今のところいないが、今後随時説明は必要と思われる。	職員は身体的拘束については一定の理解があるが、言葉による拘束については、十分な理解が得られていない。昨年度から身体拘束についての研修会が実施されておらず、今後は事業計画を作成し、勉強会を実施していく予定である。		職員が拘束について十分理解できるよう勉強会や研修会を実施し、拘束をしないケアの実践に取り組むよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	明らかな身体的虐待に対する理解はあるが、グレーゾーンについての理解は不十分。「～しますよ」等敬語でも自己選択が出来ない声掛けが多く聞かれており、声掛けの方法についても説明を行った。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者はおらず、職員は制度についても名称程度の理解。11月に任意後見人制度について研修を参加をし、職員へも回覧にて報告を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約についての説明は書類を用い十分に行っているつもりであるが、口頭での補足が必要。より理解しやすい様、詳細な内容まで記載する様現在整備をしている。不明点があれば、問い合わせが出来る様、都度伝えている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会があれば、家族と日常会話をし相談しやすい雰囲気作りに努めている。利用者や家族と話した内容は、介護記録に欄を設け、随時報告や情報共有をしている。内容により関係機関へ報告及び、運営推進会議での報告をする事としている。	家族会はないが、電話や来訪の機会を利用し、出された意見を記録している。また、管理者が家族を訪問して話し合ったり、運営推進会議でも意見が出されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を月1回実施しており、意見を聞く機会を設けているが、随時職員からの話を聞く機会が多い。実施できるものは検討し取り入れる様にしている。	職員も意見や提案を提出できるよう、意見箱と用紙を新たに作成している。管理者は、職員から意見や提案を積極的に出してもらえよう信頼関係の構築に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況について、現在は管理者からこまめに相談・報告を行っている。代表者の想いと、職員の想いへギャップがある事を感じるが、今後整備していく事としている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は法人内研修未実施。月一回の職員会を利用し、勉強会の実施を検討している。認知症サポーター研修を計画するも、職員参加希望が殆どない状況。外部研修への機会は可能な限り参加している状況。今後は計画を立て、実施していく事としている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入。職員参加の機会としているが、参加の機会は少ない。今後機会の確保は必要。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付簿を記載し、本人・家族・担当CMと連絡を取り合い多角的に本人状況を把握する様努めている。可能な限り利用開始までに、訪問を実施し、顔なじみとなる様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問の機会を作り、顔を合わせ、やりとりが出来る様努めている。要望も、普段の会話から察し尋ねたり、今後予測される不安点についても確認するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで対応可能なサービスと家族協力が必要な部分を明確にし、説明を行っている。他のインフォーマル資源の情報収集を行い、必要時は情報提供が出来る様にしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者へ寄り添い介護を行っているが、介護者であるとの意識が見える声掛けが時折見受けられる。「してあげたい」との想いが強い職員が多い印象あり。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多い家族との関係は良好に築けている。しかし、家族意向がそのまま反映される事も多くみられ、本人意向を家族へ伝える働きかけが不十分。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人情報が少なく、本人・家族から情報収集を行っている所である。家族・本人共に、「他の人と同じように・・・」と話す事が多く、個別ケアが進んでいない。入居前からの関わりは、すでに断たれている方も多し。GHの役割を家族へ伝え続け、少しずつ故郷訪問等も行っていきたい。	これまで日常的な外出の機会が少なく、なじみの人や場との関係継続がなされていなかったが、家族の協力で外出する機会を確保している。今後は外出を支援し、また、担当者から家族宛のホーム便りを出す予定である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、会話をする姿があまり見られない。役割を持った利用者が、他者の居室へ洗濯物を運んだり、お茶をついで渡したりとみられている。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時は、住み替え後の担当者へ情報提供を行い、何かあればと伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制とし、意向を聞ける様努めている。自ら想いを話す利用者がいない為、具体的な実施が出来ていない。	業務優先になっており、利用者は本人の思いや意向を十分に表出できていない。職員主体で、利用者本人の選択の機会が少ない。		利用者本人本位での意思が表出されるような働きかけを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報・生活歴が少ない利用者が多い状況である。サービス開始前に、生活歴の把握を行い、随時会話の中から内容を追加していくようにしている。家族面会時には可能な限り情報収集を行い、本人言動の確認を取る事もある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同じ日課を皆で過ごす利用者が多く、変化は気付きやすい様。そのためか、新たな試みへの実施に拒否される利用者もいる。軽作業の実施等有する力が発揮される場面作りがまだまだ不十分。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族へ随時意向や要望を伺っている。要望があれば、実施出来る様計画作成を行っている。	家族訪問を行い意見を聞いている。担当制であるが、職員一人ひとりが介護計画について理解し、介護計画に即した介護を実践できているかが不十分である。記録様式を変更し、新たな取組を行っている。		利用者本位の介護計画を作成し、介護計画に即した介護実践を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日同じ記載内容であり、個別記録から本人状況が把握できず、様式変更・記録の記載内容について話し合いを行った。本人へのアプローチも画一的な印象。些細な気づきは口頭で伝達される事もある。記録についても、伝え続けている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当GHとしての可能な対応を家族へ伝え、今後状況変化に合わせ、本人・家族がサービスを選択できる様にしている。			

宮崎県日向市 グループホームほほえみの里(牧水館)

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区との関係が密に取れており、いつでも協力が取れる状況である。運営推進会議を通し、地域資源の情報収集を行い、災害時及び行方不明時等の協力依頼へ派出所への訪問を行った。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年まで訪問診療を行っていた為、変更している利用者も多いが、入居時には、出来るだけかかりつけ医への継続受診を勧めている。ホームの場所がら、受診への負担が大きい状況。受診対応は家族協力もあり。	かかりつけ医の受診は有料で理事長が行っており、ホームとしては協力医への情報提供や家族への報告を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置が無い為、必要な情報は随時担当CMへ報告・相談を行い、受診または病院の地域連携室担当者へ連絡を入れ相談をしている。介護職員だけでは判断しない様注意をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院決定後は、速やかに本人の情報提供を行い、それぞれの担当者を明確にしやりとりを行っている。家族との情報交換を頻回に行い、退院時期についても家族へ相談を行いながら進めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアマニュアルは作成されている。随時家族と話し合い、協力を依頼しながらホーム内で出来るケアを行うよう努めている。	入居時に、重度化や終末期について本人や家族と話し合い、記録に残している。現在、協力医や訪問看護、職員の体制が整っていないため看取りには至っていないが、ホームでできることを伝え、不安を取り除く支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な実施が出来ていない。急変時は救急車要請を行うよう、手順を掲示している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を設置し、防災訓練を年に2回実施している。夜間を想定した防火訓練を12月に実施予定。備蓄量は不十分。	区長から地域住民を含めた避難訓練の提案があり、12月に地元消防団員が参加し夜間想定訓練を実施している。地域の避難場所になっているが、備蓄が十分ではない。駐在所の協力も得られようになった。	食材だけではなく、災害用の備蓄製品の確保を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの特性や職業歴を把握し、声掛けを行う様努めている。その時々の様子から、柔軟に声掛けの方法を変える様にしているが、不適切な場面も見受けられる。		トイレ介助がオープンになっていたため、情報や資料を提供し、一人ひとりの尊重やプライバシーの確保について職員の意識と体制の改革に努めているが十分ではない。	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーが確保された対応を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日全員が同じ日課を過ごしており、希望を表す機会も無い印象あり。今までの声掛けの方法からも、選択が出来ない状況がみられていた為、声掛けから変更を行ったところである。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら活動を行える利用者は、比較的自分のペースで過ごしている。個別ケアが十分に出来ていない。意向も聞き取りを行い続けるも、今のところ希望が出てこない状況。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分で身だしなみは整えているが、衣類の選択等も職員が選ぶ事が多い。髪型は、以前からホーム職員へ家族が依頼する事が慣習化されていた様であり、今後は家族へ説明後に訪問理容を導入する事としている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの聴取が不十分。誕生日には、好みの食べ物を提供できるよう働きかけを行っているが、今まで同様で好み聞き取れない状況。片づけは利用者と一緒に出来ている。	台所のスリッパやエプロンは専用になっている。経営者家族が週2回食材の買い物を行っている。献立表は職員主体の献立になっており、高齢の利用者に合わせた献立にはなっていない。	利用者の希望する献立を作成し、また、献立にあった食材の買い物をホームの職員と利用者で実施することを期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。好きな飲み物を選べるよう働きかけが出来ていない。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。利用者に応じ、うがいの方法を変え実施出来ている。義歯洗浄はホームで管理し行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要な利用者は排泄チェックを行い、大まかな排尿パターンの把握を行っている。	一人ひとりの排尿パターンに考慮してトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、出来るだけトイレでの排泄を行えるよう支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一におきの入浴が設定されている。利用者自身も「今日は入浴日」と言い習慣化されている様。その時どお気の気分に合わせた柔軟な対応は行えていない。	業務パターンによりその日の入浴者が決められており、希望に沿った入浴支援がなされていない。	受診時や希望に沿って、柔軟に入浴支援を行うことを期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで過ごしており、居室で横になる習慣が全くない。夜間は早めに居室へ戻り朝まで休まれている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬への日付記載が無く、日付を記載する様変更。また、薬内容の変更や管理については、特定の職員だけが把握していた為、担当者も把握する様にした。状況の変化は随時観察事項の声掛けを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の記載が少なく、現在情報収集を行っている状況。個別ケアが十分に行われておらず、家族へも協力を依頼し少しずつ、嗜好品や楽しみ事に支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣住民の協力もあり、特定の利用者は畑の手伝いへ参加している。本人から聞かれた情報は、家族へも伝え、外出支援を行っている。地区の行事へ参加は頻回に行っているが、特定の利用者に限られている。	業務優先で日常的な外出支援は行われていないが、地域行事への参加や敷地内の散歩は行っている。車椅子利用者のために敷地内から道路にコンクリートで道を作り、車椅子が通れるようになっている。午後2時過ぎにはパジャマに着替えているので、外出が難しい。	外出支援が可能な日中の職員配置になっているので、個々の職員が業務に縛られることなく柔軟に業務を見直し、外出支援ができるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	牧水館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の段階で、少額でも自己管理する事を勧めている。日用品購入をする機会が多く、また、突発的な受診に備え、お金をホームへ預けている家族が多い。面会時は随時残金確認や、用途を伝えている。今後管理法について検討予定。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話の設置はないが、希望があれば、いつでも電話の介助を行う事は出来る。利用者からの希望は今のところない為、家族からの電話の際、取りつぎを行う様にしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール以外はエアコンが設置されていない為、廊下や脱衣室・トイレとの気温差がみられる。エアコンは来春をめどに設置予定。	共用空間には季節の飾りがなされており、ゆっくり過ごせるようテーブルやソファを配置している。空調設備がリビングだけになされていたが、来春には居室にも設置予定で、温度や湿度の調整が改善される予定である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂へソファがあり、いつも同じ場所へ座っている。他の場所の提案をするが、いつもの場所を選び過ごしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来るだけ自宅で使用していた家具等の持ち込みを依頼している。居室内は自身で物の管理が行える様、家族へも十分に説明をし、利用開始をしている。以前からの利用者は改めて家族へ声掛けを行うが、変更はされていない状況。	これまでは持ち込み品の制限があったが、新しい入居者は、自宅で使っていたたんすやテーブルと椅子のセットを持ち込み、家族の写真を飾るなどしている。管理者は、今後は使い慣れた品物を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるような配慮を考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口へ、目印いの名前を掲示しているが、活用はされていない。毎日同じ行動を行っている為、今の所新たな取り組みは行っていない。			